

イクボスセミナー



多様な女性の活躍や働きやすい職場づくりの支援の一環として、平成29年9月、とちぎ男女共同参画センターとの共催で、ワーク・ライフ・バランスの草分け的存在として著名な佐々木常夫さんの講演会を開催しました。



〔経歴〕

佐々木さんは、自閉症の長男を含む3人の子どもの世話と、肝臓病とうつ病にかかり40回以上の入院を繰り返す妻の看病に忙殺される状況の中でも、仕事への情熱を捨てずに様々な事業改革に全力で取り組まれています。

〔家族はチーム〕

「妻は、何事にもきちんとやるのが好きな人なのに、病気になるって自分は役立たずだと自身を責めるようになったことから、うつ病も発症。長男は、幻聴から母親に対して手を挙げてしまう時期があった。」佐々木さんは、家族だから逃げ回るわけにはいかないと激務、家事、看病に翻弄される日々を送っていました。「自分は頑張っているのにどうしてこんなことになるのだろう。」と何度も弱音を吐きかけたことがあったそうです。

「自分が、悲劇のヒーローだと思っていた。信頼関係が出来ていれば、こんなことになっていなかった。まず娘が、私の心の変化に気付いてくれた。そうしたら妻は快方へ向かい、長男も落ち着き、極限を乗り越えたら家族に強い絆が生まれていた。」

「家族は、『チーム』なんです。どんな状況であろうと、自分で出来る精一杯のことをする。お互いの弱点をカバーし合いながら協力し合っていかなければいけない。そういう意味で言えば、家族も仕事と同じように『チーム』であると考えるべき。」
〔幸せに生きるため、仕事、家族、趣味を大切に〕

「個人も会社も、共に成長する生

き方、働き方」に必要なことは、まず、第一に社員満足度を高める。

仕事を定時に終えて自分の時間を大切に出来、そして最も大事な家族とのコミュニケーションがとれるようになる。それが、社員一人ひとりの『頑張る気持ち』につながる。

次に生産性を上げる。定時に帰るため、時間のロスをなくし、スケジュール管理をしっかりやるようになる。会社の仕事はチームプレー、そういう意識の社員が増えれば、組織全体の生産性向上につながる。その結果、企業の競争力が強化される。そうすることで、『働きやすい会社』として世に知られるようになるので、入社希望者がたくさん寄せられ、その結果、優秀な人材を採用することが出来る。」と佐々木さんは語りました。

この閉塞感ある社会の中で、自分を大切に、成長させ、何かに貢献することを追い求めることが「幸せ」に繋がるのかもしれない。(T・M)

